

BASEL

B a y
A r e a
S p o r t s
E n j o y
L i f e

横浜市障がい者スポーツ指導者協議会

2020年度 研修資料



2020年改訂
障がい者スポーツ指導者講習
(初級)の要点

目 次

はじめに

第1章 スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質について・・・1

1. スポーツのインテグリティとは・・・1
2. スポーツにおいてインテグリティを脅かす要因・・・1
3. スポーツ指導者に求められる資質・・・1
4. 障がい者スポーツ指導員の役割・心構え・視点・・・2
5. ボランティアの魅力・心得・留意点・・・3

【参考】 スポーツにおける公正性・公平性の実現を目指す宣言・・・4

第2章 コミュニケーションスキルの基礎・・・5

1. よいコミュニケーション、よいプレゼンテーションの留意点・・・5
2. よい人間関係をつくるために必要なこと・・・5
3. スポーツ指導者に必要なコミュニケーションスキル・・・5
4. 障がい特性に応じたコミュニケーション・・・6

第3章 障がい者スポーツ推進の取り組み・・・7

1. 各都道府県・指定都市の障がい者スポーツ推進の現状と課題・・・7
2. 地域の障がい者スポーツ協会や指導者協議会について・・・9

引用・抜粋 参考文献・・・10

はじめに

皆様もご存じのとおり、新型コロナ禍で地域のイベントや各種スポーツ大会が中止または無観客試合などになっています。このような世情を鑑み、例年開催しておりましたBASEL研修会も参加者および関係者の安全を第一に考慮し、今年度は集っての研修を中止といたします。

つきましては、2020年度BASEL研修会は、教本「障がいのある人のスポーツ指導教本（初級・中級）2020年改訂カリキュラム対応」から、**10年ぶりに改訂された障がい者スポーツ指導員の基準カリキュラム（初級）**について要約したものを皆様に送付することといたしました。

～ 新しいカリキュラム3つのポイント ～

- スポーツのインテグリティ（誠実・真摯・高潔）を重視できる指導員の養成
- スポーツの楽しさ、大切さを伝え、自身で考え発信できる指導員の養成
- 地域との連帯を見据えた指導員の養成

上記3つのポイントを踏まえ、改定された「カリキュラムの柱」について紹介いたします。

第1章 スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質について

1. スポーツのインテグリティとは

「誠実で強固な倫理原則を維持できている状態」を意味する。

2. スポーツにおいてインテグリティを脅かす要因

ドーピング、八百長、差別、暴力、パワーハラスメント、セクシャルハラスメント、スポーツ事故など。

これらの要因は、選手のみならず、コーチや審判、スポーツ団体、観客など、スポーツに関わる全ての人々がその対象となる。

3. 指導者に求められる資質

- (1) 自身がスポーツを愛し、スポーツの意義と価値を自覚している人。
- (2) スポーツ指導の重要性と社会的責任を理解し、スポーツとプレイヤーの未来に責任を持てる人。
- (3) 態度や行動などについて、自身を振り返り、学び続け、プレイヤーと共に成長できる人。
- (4) 暴力、ハラスメントを行使・容認せず、プレイヤーの権利や尊厳、人格を尊重し、公平に接することができる人。
- (5) 地域行政、スポーツ、福祉、教育などの関係者と連帯し、障がい者スポーツの振興を図ることができる人。
- (6) プレイヤーの自立、パフォーマンス向上、人間的成長のために、専門的な知識、技術、経験をもち、プレイヤーを第一に考えて長期的な視点で支援できる人。



4. 障がい者スポーツ指導員の役割・心構え・視点

障がい者スポーツ指導員区分	心構え・視点	役 割
初 級	<p>①障がいや障がい者スポーツ、安全管理に関する基礎的な知識・技術を持つ。</p> <p>②中級障がい者スポーツ指導員資格取得を目指すなどの自己研鑽を積む。</p>	<p>①地域に住む障がい者を運動やスポーツに導く。</p> <p>②運動やスポーツの楽しさや、基本的な運動の仕方などを伝える。</p> <p>③地域の大会や行事に積極的に参加するなど、地域の障がい者スポーツ振興を支える。</p>
中 級	<p>①障がいや障がい者スポーツ、安全管理に関する専門的な知識・技術を持つ。</p> <p>②上級障がい者スポーツ指導員資格取得を目指すなどの自己研鑽を積む。</p>	<p>①地域に住む障がい者を運動やスポーツに導く。</p> <p>②指導計画を立て、各競技の基本的な技術や練習方法を指導する。</p> <p>③地域の大会や行事では、運営のリーダーとして参加者を支援し、スタッフをまとめる。</p> <p>④全国障がい者スポーツ大会の役員として参加する。</p> <p>⑤地域の障がい者スポーツ振興の課題を理解し、関係諸団体と連帯してその解決を目指す。</p>
上 級	<p>①障がいや障がい者スポーツ、安全管理に関するより専門的な知識と高度な技術と豊富な経験を持つ。</p> <p>②初級、中級障がい者スポーツ指導員の研鑽を促進、支援する。</p> <p>③自ら研鑽し、知識や技術を習得するようにする。</p>	<p>①地域に住む障がい者を運動やスポーツに導く。</p> <p>②指導計画を立て、専門的な技術や練習方法を指導する。</p> <p>③全国障がい者スポーツ大会の中心的な役員として活動する。</p> <p>④地域の障がい者スポーツ振興のリーダーとして課題を理解し、関係諸団体と連帯してその解決に取り組む。</p>

5. ボランティアの魅力・心得・留意点

(1) できることから少しずつ

周囲と協調するよう、まずは挨拶や言葉づかい、活動にふさわしい服装などできることから少しずつ始める。

(2) 明るく、楽しく、自己責任

ボランティアは自発性に基づく活動だが活動に伴う苦勞もある。その苦勞を楽しむくらいの余裕を持って活動したい。とは言え楽しむことと、いい加減に活動することは違う。健康面を含めた自己管理やルールを守る自己規制が必要。

(3) 多様性を尊重

色々なやり方や考え方があることをまずは受け入れ、その上で違いや共通項を見出し、自分達の活動につなげていく。

(4) 守秘義務の遵守

活動中に知り得た名簿やプライバシーに関わる個人情報をみだりに人に話したり、むやみにSNSに投稿したりしない。

(5) 手段と目的を見誤らない

活動の主役は障がいのある選手や参加者。ボランティア自身の技能の高さを主張するのではなく、選手や参加者が怪我無く、楽しく、より上達できるよう謙虚な気持ちをもって活動をする。

(6) 万が一に備えて

活動場所への移動、準備、片付けを含めて、事前・活動中・事後の事故に備えてボランティア保険などに加入しておくことが望ましい。



【 参考 】

近時、プロアマを問わず、ドーピングや暴力、八百長など、スポーツ団体を巡る不祥事報道が後を絶たない。こうした不祥事は競技者のスポーツ権はもとより、様々な権利を侵害するものである。また、スポーツ団体のガバナンスやコンプライアンスに関わることもあり、法的な問題が多く含まれている。そのため、スポーツ庁は令和元年6月にスポーツ団体が適正な団体運営を目指す指針として「スポーツ団体ガバナンスコード」を公表した。ガバナンスコードでは、13の原則を打ち出し、その中に「弁護士を積極的に活用すべきこと」が明記された。

こうした流れをうけて、関東弁護士連合会は2020年9月25日開催の関東弁護士会連合会シンポジウム（WEB配信）において「スポーツにおける公正性・公平性の実現を目指す宣言」をした。

「スポーツにおける公正性・公平性の実現を目指す宣言」

- 第1 スポーツ権の保障やスポーツにおける公正性・公平性の重要性の啓発
- 第2 スポーツロイヤーの養成と権利侵害に対する救済手続きの研修
- 第3 スポーツ団体、並びに競技者への周知・広報
- 第4 障害者スポーツと差別・権利侵害事例の研究



第2章 コミュニケーションスキルの基礎

1. よいコミュニケーション、よいプレゼンテーションの留意点

コミュニケーションが、誰と誰の間でなされているかを考慮に入れる。なぜなら、スポーツを指導する者とされる者の間に上下関係が存在する場合、コミュニケーションの中に見えざる強要が秘められてしまうことがあるからだ。その点をスポーツを指導する者とされる者の双方が自覚する必要がある。

2. よい人間関係をつくるために必要なこと

自分の考えや想定していたプランなどを上回ることや、相手からの予想外のリアクションが起こった時は、自分の考えやプランなど、前提していたものを一旦脇に置き、相手の主張に耳を傾ける余裕（「どうでもあり得る」という視点）を残しておくことが大切である。

3. スポーツ指導者に必要なコミュニケーションスキル

- (1) **観察**：障がい者のスポーツ指導には、障がいの理解も必要。日常生活動作の動きや言動なども十分に観察してから技術指導を行う。
- (2) **聞く**：指導や助言をする前に「今日の調子はどうですか。」など、聞くことで相手が話し出すきっかけとなり、会話の糸口にもなる。
- (3) **伝える**：障がいを理解し、様々な伝え方や伝わりやすい技術を身につける。
(筆談、文字盤、短いセンテンスなど)
- (4) **褒める**：褒めることが良い連鎖を生み出し、運動技能の習得が促進される。
(まず褒める ⇒ 運動意欲が高まる ⇒ 目標達成度が高まる ⇒ 目標達成 ⇒ 自信がつく ⇒ 目標実現に向けた意欲が高まる)
- (5) **好感度**：話し方、表情、服装などの第一印象は大切。アイコンタクト（相手の目を見て話す）や元気ではつらつとした態度などは、人間関係を築く基本である。
- (6) **ユーモア**：品格のあるユーモアは、心が和み、楽しさが倍増する。

4. 障がい特性に応じたコミュニケーション

(国土交通省がまとめた「発達障害、知的障害、精神障害のある方とのコミュニケーションハンドブック」から抜粋)



(1) 困っていることに気づく

- ① 強い口調や相手をとがめるような口調はしない。
- ② 笑顔でゆっくり、優しい口調で声をかける。
- ③ 年齢にふさわしい、相手を尊重した対応をする。
- ④ 声かけを断られたら、声かけをやめる。
- ⑤ 後ろから声を掛けると、ビックリしてパニックになる人もいる。

(2) リラックスした雰囲気をつくり、相手の様子にあわせて話をよく聞く

- ① 斜め前に立ち、笑顔で目を合わせる。(正面に立つと、目線が怖い人もいる)
- ② 近すぎず、声が聞こえる距離を保つ。
- ③ 相手が大きな声になってしまっている時は、小さめの声で話しかける。
- ④ 言葉が出ずに困っている時は、相手の状況や気持ちを推測してこちらから質問し、気持ちを確認する。
- ⑤ こちらから質問する場合は、「はい」「いいえ」で答えられるような質問の仕方にとよい。

(3) ゆっくり、はっきり、短く、具体的に話し、内容を理解しているか確認

- ① 「もうすこし」とか「そこらへん」など抽象的な表現ではなく、「あと5分」「青色の柱の所」など、具体的な言葉で伝える。
- ② 大切なことはメモに書いて渡すなど、視覚的に伝える工夫をする。(一度に多くのことを言われると、覚えられない人や、わからなくなってしまう人もいる)
- ③ 内容を繰り返し確認し、本人に復唱してもらう。
- ④ 静かな場所で話す。(騒がしいと聞き取れない人や、落ち着かなくなる人もいる)

(4) コミュニケーション支援アプリや声かけ変換表などの活用

- ① スマートフォンやタブレットなどでも利用できるアプリケーションがある。
- ② 発達障がい、知的障がい、精神障がいのある人は、「〇〇してはいけません」など、否定的な言葉や曖昧な言葉をかけられると、どうしてよいかわからず、パニックになってしまう人もいるので、効果的な行動を具体的に説明してあげることが必要。理解が得られやすい声掛けの参考として、「声かけ変換表」などを活用するとよい。

声掛け変換表の一例

変換前	変換後
早くしてください	あと何分かかりますか
静かにしてください	声を「これくらいの大きさ」にしてください
走ってはいけません	歩きましょう
危ない！危ないからだめ！	止まりましょう、ケガをしそうで心配です
いつでもいいです	5分後ならいいです、○曜日の○時ならいいです
何をしているんですか！	今、何をしていますか
人の迷惑になりますよ	大きな声を出すと頭が痛くなってしまう人がいるので「これくらい」の声にしましょう

第3章 障がい者スポーツ推進の取り組み

1. 各都道府県・指定都市の障がい者スポーツ推進の現状と課題

(1) 各都道府県・指定都市の現状

2020年オリンピック・パラリンピック開催を契機に、各都道府県ではスポーツ推進計画の見直しや改定がなされ、より具体的な目標を定め、障がい者スポーツの理解促進と障がい者がスポーツに参加できる環境づくりを推進するための取り組みを行っている。

- 人づくり： 指導員養成・育成
- 関係づくり： スポーツ教室やイベント事業
- 拠点づくり： 活動拠点設置・ネットワークづくり

(2) 日本障がい者スポーツ協会の現状

2012年（平成24年）に「活力のある共生社会の創造」という理念のもと、「障がい者スポーツの普及拡大」「競技力の向上」「社会の活力向上」の実現に向け、「日本の障がい者スポーツの将来像（ビジョン）」を発表。2020年、2030年の中長期目標を設定し、関係諸団体の理解、協力を得ながら目標達成に向けた取り組みを進めている。

日本の障がい者スポーツの将来像（ビジョン）

- 一人ひとりの個性を尊重する
- スポーツの価値はすべての人に共通する
- すべての障がい者がスポーツの価値を享受できる
- スポーツを通じた障がい者の社会参加を広げる
- 障がい者スポーツの発展により活力ある社会を創造する
- スポーツ施策の一元的推進する社会をめざす

（3）都道府県・指定都市の障がい者スポーツ協会から挙げられた過去5年間の主な課題

【指導者の課題】

- ・地域のキーパーソン（中核）となる指導者の育成
- ・指導者、支援者の資質向上と専門性の活用
- ・地域の自立したスポーツ活動を目指した事業への協力と参画

【拠点整備の課題】

- ・地域で気楽に継続的にスポーツに取り組める環境の整備
- ・行政、学校、地域クラブなど組織間の連携強化による拠点整備の充実
- ・県域における地域格差の解消

【事業企画の課題】

- ・事業企画と実施内容の検討
- ・継続性を見据えた仕組みづくり（自立した取り組み）
- ・全国障害者スポーツ大会など大イベントの開催機運に乗じた事業の企画



2. 地域の障がい者スポーツ協会や指導者協議会について

	都道府県・指定都市 障がい者スポーツ協会	都道府県・指定都市 障がい者スポーツ指導者協 議会
役 割	都道府県・指定都市の障がい者 スポーツの普及・振興の中心と なる非営利組織。 身体・知的・精神（一部地域は 身体・知的のみの団体もあり） が対象。	日本障がい者スポーツ協会公 認指導者として地域における 障がい者スポーツの普及・啓発 を進める者により運営された 非営利組織。
協会数・協議会数	計57か所 （47都道府県・10指定都 市）	都道府県・市を含む計51組織 が8ブロックに分かれて構成。 指導員登録の際、都道府県・指 定都市を記入した「活動登録 地」にある協議会へ登録。
主な活動	<ul style="list-style-type: none"> (1) 全国障害者スポーツ大会 予選会の実施と本大会 への派遣 (2) 全国障害者スポーツ大会 強化練習会の開催 (3) 障がい者スポーツ指導者 の養成 (4) スポーツ教室・イベント・ 大会の企画、開催 (5) 競技団体・クラブ・ボラ ンティアの育成と支援 (6) 普及啓発を含む、障がい 者スポーツ広報 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 主催事業 <ul style="list-style-type: none"> ①指導員の資質向上研修会の 実施 ②スポーツ教室・イベント・ 大会の企画、開催 ③広報誌・ホームページ等の 情報提供 (2) 協力事業 <ul style="list-style-type: none"> ①全国障害者スポーツ大会予 選会の運営協力 ②全国障害者スポーツ大会強 化練習会の協力 ③全国障害者スポーツ大会へ の役員派遣協力 ④スポーツ教室・イベントの運 営協力 ⑤地域のスポーツ関係団体へ の支援・協力

引用・抜粋 参考文献

- 1) (公財) 日本障がい者スポーツ協会編集「障がいのある人のスポーツ指導教本（初級・中級）2020年度改訂カリキュラム対応」 p.2-p.5, p.16-p.19, p.30-31
株式会社 ギョウセイ
- 2) 関東弁護士会連合会編集・発行 2020年度 関東弁護士会連合会シンポジウム「スポーツにおける公正性・公平性の実現のために」～障害者スポーツ、不祥事対応を題材として～p. i 「ご挨拶」
- 3) 「2020年度 関東弁護士会連合会シンポジウム」開催報告書添付書類『『大会宣言』『スポーツにおける公正性・公平性の実現を目指す宣言』』 p.1-p.3

*「障がいのある人のスポーツ指導教本（初級・中級）2020年度改訂カリキュラム対応」は、下記URLから購入可能です。

株式会社 ギョウセイ
〒136-8575 東京都江東区新木場 1-18-11
電 話 編集 03-6892-6508
営業 03-6892-6666
フリーコール 0120-953-431
URL : <https://gyosei.jp>

令和 2年 1月9日 発行
発 行 横浜市障がい者スポーツ指導者協議会 研修担当

